

大人のまちの楽しみ方 アソビノベーション+ONE

第7回 「遊びを振り返る その2 遊びを見つめてみよう」

平成27年8月22日 (土) 10時から12時 於：セッション杉並 視聴覚室

コース学習支援者：(株)エンパブリック 広石拓司

補助者：(株)N9.5 齊藤志野歩

学習支援者 広石

こんにちは、みなさん、今日はどんな気分ですか。これが、今日のテーマでもあるんです。この3日間くらいで、自分は何種類くらいの感情をもったのかなと考えてください。

—————考える—————

では、ちょっと聞いてみますね。挙手をお願いします。10個以上は4人。6-9個くらい、3-5個は1人か2人か。ハイ、わかりました。最大でどれくらいの数でしたか？

参加者 12個。

学習支援者 広石

12個と数えられるのはスゴイですね。

参加者

私は最大4つしかなかったです。喜怒哀楽の最大4つしかないと思うのですが。

学習支援者 広石

お配りした資料をご覧ください。すごく良い本ですので、ぜひ読んでほしいのです。

『生きづらさから自由になる気持ちのキセキ』（箱崎幸恵著 明石書店）

「エモーショナル・リテラシー」



エモーショナル・リテラシーという言葉があります。32個の感情の種類があるのですが、

今の子供って、うざい、きもい、うれしいくらいしか、自分を表現することがないみたい
です。しかし、よく見てみると、いろんな表情、表現があるんだなとわかるそうです。改
めて、この表をみて、自分の感情がどうだったのか考えてみてください。この3日間で、
どんな感情があったでしょう？これ、あったかも？と1つのヒントとして、この32個の感
情を使ってみてください。

——— 考えてみる ———

学習支援者 広石

では、聞いてみましょう。10個以上の方は挙手してください。やはり、増えますよね。日々、
3つか4つの表情しか思い出せないのですが、こうしたツールがあると、案外、愛おしいと
いう気持ちを持ったのだなと思いだせたり、羨ましいという気分があっても、その瞬間は
感じて、ずっと覚えていなかったりと分かります。感情って、受け止めているようで、
受け止めていないようなところがあると思います。案外、遊びの中で感情というのは大事
だと思います。楽しいから遊び、くやしいから頑張る。喜怒哀楽を表面にもっと出す。お
菓子を食べた時に、美味しい、嬉しい、懐かしいという気持ちもあったかもしれません。
共感もあるでしょう。32個の表情が正しいというわけではないのですが、見ていくと、自
分のいろんな側面が見えてきます。仕事の中でも喜怒哀楽はあるでしょう。でも、整えら
れることが要求されていますし、自分たちも整えています。日々の仕事や活動から離れた
ところで、自分の感情と向き合ってみるのも遊びの意味なのかもしれません。

これから、前回から今回の講座外でおこなった「夏遊び」の報告をしていただき、共有して
もらいますが、その際に気持ちのことも伝えてください。自分がどんな気持ちだったのか。
参加できなかった場合は、どんな風に思うのか。参加しようと思ったのなら、どんな気持
ちになったのか。気持ちということに注目して、報告をしてみてください。

「肝だめさない」参加者

※「肝だめし」ならぬ「肝だめさない」は、とにかく怖くないように歩くということがコ
ンセプト。そのため、夜にはおこなわないし怖い話もしない。雨もふったらなんとなく怖
いので中止にする。

前回、講座が終わった後に、セッションの裏を20-30分ほど散歩しました。見たことない遊
具やお墓がある通りに気づきました。高い建物が少なく、京都や奈良のように感じ、新し
い景色を発見しました。面白かったです。大人になってから、遊具ではしゃいで写真を撮
る経験はなかったので、楽しかったです。

学習支援者 広石

どんな感情だったのですか？

「肝だめさない」参加者

感情？久しぶりにはしゃいでいたな。遊具の上で手をあげたりなんて、しばらくやっていませんでした。

「肝だめさない」



「肝だめさない」参加者

広石さんが2年前の講座のまち歩き中に熱中症になったことを聞きました。私ももう少し涼しかったら、もっと歩けたなと思います。水のでるところで、水を頭から被っていた方がいました。たぶん彼が最もはしゃいでいたでしょう。この場では見られない姿が見られて、楽しかったです。

学習支援者 広石

ほかの企画は如何でしたか？

「よこしまな呑み会」 「シティアニマルハンター」 参加者

よこしまな呑み会をテーマに、行ってきました。横縞の服を着て参加するのがルールでした。横縞だけでなく、縦縞の方もいたり、被っている服であったり楽しかったです。飲み会では即席マジックも披露されてすごかったです。よこしまな呑み会の際、まち中で動物のオブジェや看板などを収めた写真を見せあうシティアニマルハンターも同時開催しました。アニマルハンターでみなさんが撮られた写真をみたとき、感銘を受けたのですが、頭

がうさぎで、足が牛。「うしぎ」ですね。こんな新しい動物が生まれたらと、ネーミングでも楽しめるのだなと発見しました。また、ふだん通っている陸橋の上に猿がいて、すごく驚きました。これは、アニマルハンターの目で街を見ていたので、見つけることができたように思います。

「うしぎ」



「よこしまな呑み会」 「シティアニマルハンター」 参加者

阿佐ヶ谷のアニメストリートで蟹を捕獲しました。居酒屋にいるアルバイトさんが蟹が大好きで、蟹のものがたくさん置いてあったのです。先日撮った写真をプリントアウトしてまいりました。狸が好評で、居酒屋の店頭に置いてあったものです。

「カニ」



「タヌキ」



「よこしまな呑み会」 シティアニマルハンター 参加者

いろいろな方が集めてきてくださって、採集地とハンター名、アニマル名を一覧にしようと

思っています。地図を作って、図鑑を作れたら良いなと思っています。今はフェイスブック上で行っていますが、共有できたらと思います。

「阿佐谷七夕祭りに行ってみる」 参加者

祭り期間中、時間と場所だけ指定し、集まった人達で祭りに参加するということを試みました。小さいころの遊びのように「ただそこにいる人たちで遊ぶ」ことをコンセプトにあえてこの手法をとりました。初日は1人しかおらず、30分ほど待っていました。2日目は、遅れる旨をWebの掲示板に書いたのですが伝わってなくて、他の方を待たせてしまいました。最後は、みんな揃っていけました。阿佐ヶ谷には釣堀があって、灯籠流しをやっていました。歩き疲れた足を休め、ノンビリした時間をすごすことができました。何年ぶりかで行った場所、初めて行った場所もあり、一緒に行ってくれる人もいました。お祭りに参加するキッカケができ、良かったなと思いました。いろんな話をしながら話せたのは楽しかったです。みなさんの普段と違う面、まちの普段とは違う姿も見られましたし、初めて行くメンバーだったのでなおさらです。

「タイ料理を楽しむ会」 参加者

家族や友人にタイ料理好きがいなかったのも、いつも1人で食べに行っていました。たまたま、みなさんがタイ料理が好きと聞いたので、開催してみました。当日8名が集まって、大勢でタイ料理を楽しめて嬉しかったです。定期的に関心したいです。作る機会もあつたらなと思います。

「実行しりとり」 参加者 (Web 掲示板を利用)

「あ」から始まるということなので、私は「アンドロメダ星雲を思い出しながら、あからさまな笑顔で挨拶」と思いつきました。今回の遊びのルールではふだんしないことを「しりとり」で考え、実際にしてみるとということだったので、これを会社でやろうと思ったのですが、すっかり忘れてしまって、食堂と売店のおばちゃんにだけ「あからさまに挨拶」をしました。今日、来たときにも「あからさまに挨拶」をしたのですが、気づきましたか？アンドロメダ星雲を思いながらというのが難しかったです。笑顔ばかりに気を取られ、思い出すのを忘れていました。

「実行しりとり」 参加者

「つ」につながるよう「使い古した持ち物の思い出を思い出す」ということで、自分の中で思い出にひたりました。10年くらいずっと使っている筆箱があって、穴だらけなのですが、学生から社会人の間、ずっと持ち歩いてたんだなと思うと、感慨深いです。その割に、筆箱に書いてある英語の意味を知らなくて、申し訳なくも思いました。モノを大事にしていないなと思いました。

「実行しりとり」 参加者

「すぐにわかるウソをつく」ということを思いつきました。しかし、ウソをつこうと思うと、ウソをつけないもので、どういうウソをつこうかなと逆算して考えると、そもそもフリが必要だと気づきました。そのフリを、会話の中に入れるのはすごく大変です。当日は、お菓子がたくさんあったので、「お菓子いっぱいありますね！」と聞かれました。そこで、「そうなんですよ。10万円分も買っちゃったんですよ。」とウソを言ったところ、「ふーん」とふつうに返されてしまいました。ウソはつけたのですが、腑に落ちない感じでした。

「実行しりとり」 参加者

「く」だと、苦しいとか、臭いなどネガティブなことばかりで困ったなと思いました。そこで「苦し紛れに愛想笑い」をしました。知り合いの河野さんに「この」でなく、わざと「かわの」と呼びかけたら、ふつうに「このです」と訂正され、そこで苦し紛れに愛想笑いをしました。後日来たメールには、わざわざ名前が「この」とひらがなで書かれていました。

「実行しりとり」 参加者

次に「息を止めながら阿佐ヶ谷の商店街を歩く」が続いたので「く」を考えました。すごく短い時間しかなかったので、準備ができませんでした。冷蔵庫を開けたら、賞味期限がすぎた生ハムがあり、「くさった生ハムを食べてみておえーする」をしようと苦し紛れに食べてみました。普段やらないことをやるというのは面白いですが、しんどかったです。

学習支援者 広石

せっかくだから、続けて欲しいですね。

「連歌」 参加者

提案したのですが、振るわないです。どうぞ、皆さん、Web掲示板に気軽に書き込んでください。

「遠足お菓子」 参加者

和室で300円分のお菓子をもって集まるという会をしました。なんにも考えないで始めたので、段どりもなかったです。思いのほか多くの方が集まって、お菓子を買ってきた理由などを語ると時間がいっぱいになってしまいました。やがて、お菓子を回しながら食べようということになって、しょっぱいものと甘いものをずっと食べ続けて、口の中がわけわからなくなりました。ワイワイと楽しかったです。



学習支援者 広石

この夏、いろんな体験をしたと思うのですが、体験は振り返りを通して経験値になります。体験したことから、学んで欲しいのです。遊びの振り返りから、感じたこと、学んだことはなんでしょう。日ごろ、起きたことに注目しがちです。呑み会に行って、楽しかった。それで終わりです。起きなかったことも、実はすごく大事です。お誘いがあったけど、行かなかったのは、なぜなのでしょう？やろうと思ったけど、やらなかった。なぜなのでしょう？せっかくの、アソビノベーションですから、こういうことから学んでみてください。皆さんがやった夏の遊びで、ぜひ起きたこと、起きなかったことを振り返ってください。起きなかったことに対して、どうしようかなと考えたり、自分との対話ということで、考えてみてください。残念な気持ち、めんどろくさい、難しかったなどなど、動きがあっ

たと思います。ちょっと時間を取りますので、自分と対話してみてください。

話合い

学習支援者 広石

いかがでしょうか。いろんな話がでていたようですね。3年前の大人塾の講座では、「はじめてのソーシャルアクション」をやっていました。良かったテーマがたくさんあり、課題もたくさんありました。なぜ、今年の大人塾が「遊び」をテーマにしたかという、遊びは内発的動機から始まります。強制されたものでも、契約でもなく、完全に自由です。やるも、やらないのも自由。本人の自発性にかかっています。子供が遊ぶという話がでていましたね。プレーパークというのを知っていますか？「自分の責任で自由に遊ぶ」ことをコンセプトにした遊び場です。そこに、最近の子供を連れてきても遊べないそうです。いつもゲームばかりしているからです。ところが、プレリーダーが入って、遊びを教えると、子供たちは自由に遊んでいきます。本当に自由だと、遊べるのでしょうか。自由の部分と企画の部分みたいなものが遊びにはあると思います。企画というのは形式化されたものではなくて、その場で考えたり、そこにあるものを活かす。遊園地にはルールや順番などありますよね。プレーパークの中では、順路と逆にもいけるのでスゴく楽しいと言っています。ふだんのプロセスを崩すのが楽しい。子供の時には、こういうことを考えましたよね。ゴールがないのなら、鉄棒をゴール代わりにしたり、そこにあるモノをうまく使っています。そこにいる人と遊ぶこともします。野球をするなら9人が必要ですが、空き地の限られたスペースで4、5人しかいないのであれば、どうするか。三角ベースにしたり、壁にあたってホームランなど、あるものを使って考えていく創造性がそこにあります。

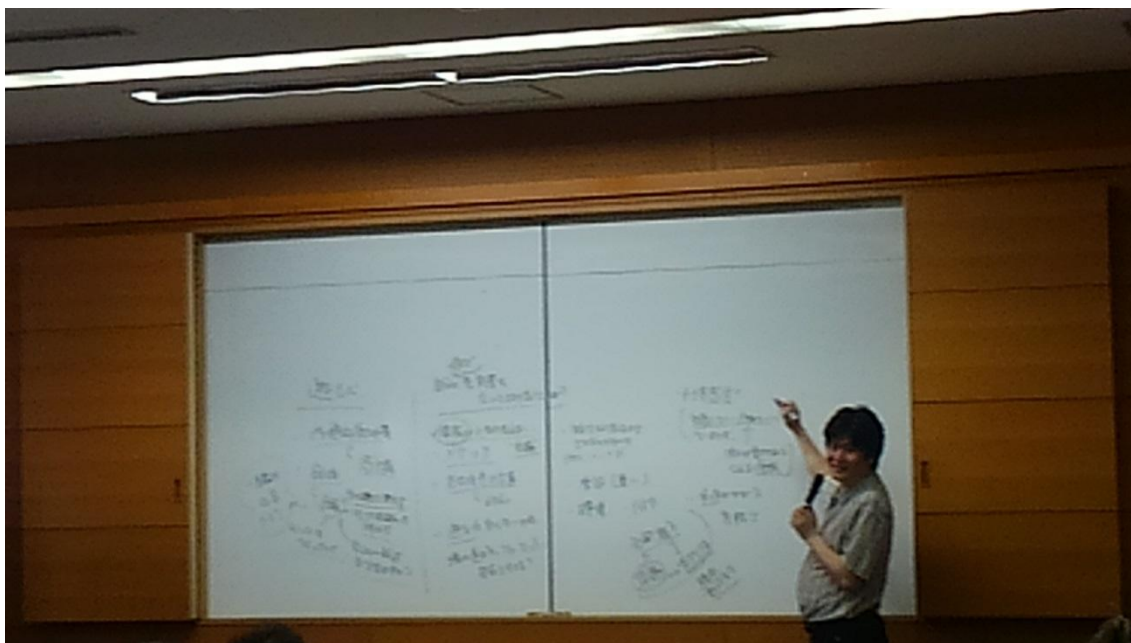
ルールを作っていくプロセスも遊びにはあります。企画する側と一緒に乗ることや、「やろう！」と誘うこと。このような要素が遊びにはたくさんあると思います。大人になると、こういうことを忘れていないでしょうか。でも、地域活動は、このような要素がたくさん入っています。NPOと地域活動と何が違うかという、NPOにはテーマがあって、そこに共感する人が集まっています。地域活動というのは、そこにいる人を良くも悪くも活かさないといけません。その場で、そこにあるもの、そこにある人を活かして考えていきます。ルールを作っていくのもあります。会社ではルールが出来ていますが、地域活動ではそのように行きません。地域活動は、それぞれの状況にあわせる必要がでてきます。地域活動と遊びには近いところがあると思って、今回のテーマにしました。遊びは、大人にはなかなか難しいところもあります。充実度をあげるにはどうしたら良いだろうと考えてしまいます。これは、仕事のですね。地域活動にも似た部分があって、情報が伝わらないことがあります。そんな面白い講演があったのかと、せっかく地域でいろんな活動があるのに、情報が行きわたらない。メディアの問題が出てきます。

町内会で回覧板を回していても、見てない人は参加できません。情報が行きわたらないことや、メディアの選択は重要な問題です。みなさんが、このアソビノバージョンコースを通して、どのようなメディアがあれば、情報が行きわたって、参加できるようになるのか提案して欲しいです。行きたかった会に、行けない時にどういうバックアップがあれば良いのか。急な用事の時に、どう対応するのか、どんなフォローがあれば嬉しいか。遊びの充実度をもっとあげることを考えるのは、地域活動にも繋がります。遊びの良さは、細かくPDCAを回せるところです。すこしずつ、作り直して、現場にあっていきます。こうすればうまく行くのではと、ドンドン試せるのも良い部分です。これからの展開として、もっと遊びになるような環境や場を作るというのを考えていきたいです。子供と一緒に遊ぼうと思っても、子供が遊び方を知らないこともあります。最近の学生も、大人数のコンパをやったことがないので、料理の注文の仕方などわからない。料理を頼ませると自分の注文の揚げ出し豆腐とだけ言うのです。大人数用の刺身だってあるし、飲み物をみんなに聞くとか、大人数用の行動があるのにそれができていない。こういうのは先輩から学んできたり、他の人から擦り込まれたり覚えていきます。場のフォーマットというのは、全員に共通していると思っはいけない時代なのでしょう。こう考えると、場のフォーマットやルールの共有も大事ですよ。

一方、誰かの企画に乗ったり、自分だけで出来ないときは頼るなど、とても良い知恵です。企画の展開の方法の1つです。今度は、このような視点から、先ほどの振り返りを考えてみてください。

—————ふりかえり—————

※PDCA(Plan 計画—do 実行—check 評価—act 改善)



参加者

充実度をあげるうえで、どうにもならなかったのが季節です。暑いのがニガテで、アウトドアしたくても、無理なのです。やりたくても、参加できません。季節を待つぐらいしか回答がなくて。

学習支援者 広石

季節や環境、体力などありますよね。

参加者

仕事の感覚で考えてしまいます。1回目は失敗してはいけないと思ったり。とりあえず始めてみて、失敗しても、みんなが受け止めてくれると考えて、とにかくやる。

学習支援者 広石

ボランティアができない理由を聞いたところ、時間がない、1回はじめたら辞めちゃいけないというのが上位でした。1回行ったら、ずっと行かなくてならないと思っているようです。失敗して良いとか、辞めてよいという感覚というのは、周りが受け止めてくれるという信頼ですよ。これは、すごく大事です。関係性がないと遊べない。関係性がないと、ボランティアやプロジェクトは出来ません。仕事の感覚と、ゆるい感覚のバランスは、難しいですが、大事な部分だと思います。

参加者

参加できなかったのが残念でした。他の用事と被ってしまうのは仕方ないのですが、情報を知らなくて参加できないという残念さもあります。情報の共有さえできれば、うまくいくと思います。今日のイベントを昨日のメールで知った人もいます。メーリングリストをうまく活用したり、フェイスブックをつかって、情報の共有を目指していきたいです。

学習支援者 広石

情報の共有を望んでいる人なら、伝えてあげたり、フェイスブックを活用したりとできるはずです。

参加者

アソビをやる場所の下見をしたり、いろんな人に聞いたりと頑張りすぎました。その時に、手間を考えすぎてしまいました。ちょっとしたことで出来るという気軽さも大事なのではと思いました。

学習支援者 広石

凝っている企画というのは案外参加しにくいときもあります。企画を凝るということ、実行することに狭間があると思います。凝った企画を考えてはダメではなくて、小さく動かしてみる、まずはやってみるなど、そういうところをコースで学んで欲しいです。企画には準備が掛かります。大人なので、時間やさける力もありますよね。バランスを取ることポイントになります。

参加者

時間をみつけて参加したのが良かったと思っています。それに行かなければ、次に行けないと思っていました。みんなが遊んでいるのに、自分だけ遊べてないのは、つらいです。そこで、無理にでも、スケジュールを合わせて参加してみました。自分で企画しないで、参加するのも良いのですが、そのうち自分のアイデアが入った企画なら、前のめりで遊べるのではと思います。

学習支援者 広石

スケジュールは大きな問題です。また、ちょっと無理してもやってみるのも良い部分だと思います。顔を出し続けるのは、難しいです。とくに関係性が出来ていないときは、なおさらです。でも、顔を出し続けてないと、関係性は作れません。強制するわけではないのですが、休んだとしても、続けて出るのは大事だと思います。

参加者

仕事の反動で、遊びが面白くなるという話が面白かったです。こういう視点から考えると、企画がうまく行かなかったとしても、これを反動に面白くなるのではと思います。

学習支援者 広石

苦労が面白さをひき出すこともあります。とりあえず、1回やってみようという気軽さも大事です。正解はないのですが、どちらも大事だと思います。

参加者

主催をすると、人が楽しんでいるのか気になって楽しめないという意見がでました。確かにと思いました。のるかのないか、スケジュールが合うか合わないかなど、1回だけの企画がありました。

学習支援者 広石

1回だけの企画と連続企画は違いますよね。また行けるというのは、参加のチャンスがあって嬉しいものです。3年前から待っていて、ようやくスケジュールが合って参加できたという人もいます。参加者が来ないと企画が悪かったと思いがちですが、タイミングやスケジュールが合わないだけということもあります。

みなさんに振り返って頂きました。これは、今日で終わりではなくて、継続して遊んで欲しいと思っています。メーリングリストなどを作って情報共有しながら、企画もしてみてください。いろんな形で、いろんな人が企画して、お互いに乗りあっていくのも良いなと思います。メーリングリストでも使いやすい、使いにくいもわかってくるかもしれません。そういったことも含めて、みなさんで付き合ってもらいたいです。次回は、街に遊びに行きます。遊ばなくても良いのですが、行ったことのない街、行ったことある街が杉並区にあるでしょう。街にあるものを活かして、妄想でもよいので、企画を考えてください。違う視点が広がるのではと思います。グループ分けをして、時間があう人同士で参加して頂けたらと思います。街情報も共有してみてくださいね。それでは、今日もおつかれさまでした。ありがとうございました。

